

『就実論叢』第50号 抜刷

就実大学・就実短期大学 2021年2月28日 発行

# オーストラリア薬学海外研修より

## －オーストラリアの文化と生活－

**Report on English Language and Pharmacy Program**  
**- Australian Culture and Life -**

松 尾 美奈子 ・ 阿 蘓 寛 明  
加 地 弘 明 ・ 森 山 圭  
豊 村 隆 雄 ・ 中 西 徹  
山 田 陽 一

# オーストラリア薬学海外研修より

## －オーストラリアの文化と生活－

Report on English Language and Pharmacy Program

— Australian Culture and Life —

松尾 美奈子 (薬学科)・阿 藤 寛 明 (薬学科)

MATSUO Minako

加地 弘 明 (薬学科)・森 山 圭 (薬学科)

KAJI Hiroaki

MORIYAMA Kei

豊村 隆 雄 (薬学科)・中 西 徹 (薬学科)

TOYOMURA Takao

NAKANISHI Tohru

山 田 陽 一 (薬学科)

YAMADA Yoichi

キーワード：オーストラリア、文化、生活、薬学、英語

### 1. 緒言

グローバル化が加速する社会において、薬学においても国際化は大きな課題である。薬学部ではアドバンスト科目として3年次以上の学生を対象に「薬学海外研修」を開講している。この科目では①海外文化に触れ、グローバルな視点を養う、②読む、書く、聞く、話すという薬学英語を習得する、③海外の病院、薬局、薬学部を見学し、日本との異同を認識する、④海外の医療制度、健康保険制度を知る、⑤ホームステイをし、海外生活を体験する、⑥英語コミュニケーションがとれる薬剤師をめざし、生涯教育の契機とする。以上をテーマとして、多角的視野を持ち、時代の変化に対応して国際社会で活躍する薬剤師を育成することを目的としている。2019年度に参加した学生の語学力の成果については就実薬学雑誌にて報告している。本報告では学生に行ったアンケート結果をもとに、学生たちにとって貴重な体験である異文化との交流を中心に、「オーストラリアの文化と生活」と題し、報告する。

### 2. 方法

(日程と研修の概要)

参加学生は薬学部の3～5年生であった。2019年8月に約2週間の日程で、オーストラリア東部の都市ブリスベンに滞在した。現地ではクイーンズランド大学が就実大学薬学部のた

めに特別プログラムとして提供している English Language and Pharmacy プログラムを受講し、一般家庭に2人1組でホームステイした。2018年12月から参加希望者の募集を行った。この研修プログラムは予算や学習効率を最大化するために14~18名の参加者が推奨されているが、2019年度は応募が殺到し32名の参加となった。このため、2クラスの受け入れを要請し、さらに通常は2名である引率者を3名に増員して対応した。また薬学部5年生は実務実習のスケジュールとの関係で、出発日を2日設定した。その内訳は8/9(金)出発組(学生29名、教員2名)、8/10(土)出発組(学生3名、教員1名)であった。両グループとも経路は就実大学(もしくは岡山駅)-関西国際空港-チャンギ国際空港(シンガポール)-ブリスベン国際空港(オーストラリア)であった。8/11(日)には両組ともにホームステイ先のホストファミリーと合流し、翌日から始まるクイーンズランド大学での講義に備えた。

2週間の English Language and Pharmacy プログラムの詳細を表1に示す。研修内容は大きく分けて English と Activity から構成される。English はクイーンズランド大学の英語教育の専門棟 (ICTE) の教室で行われた。まずは英語によるコミュニケーションに慣れることから開始し、オーストラリアの文化や自然、そして薬学や医療体制についてまで幅広い知識を英語で学習した。最初に英語でのコミュニケーションに十分に慣れてから、専門知

表1. English Language and Pharmacy プログラム (2019)

| 8/12(月)   | 8/13(火)   | 8/14(水)  | 8/15(木)   | 8/16(金)                                    |
|---|---|--|---|--|
| 8:15-10:15<br>オリエンテーション                                 | 8:15-10:15<br>English<br>「ホームステイでの生活」<br>「Ekka」 | 祝日<br>Ekka Day                                       | 8:15-10:15<br>English<br>ワークショップ①<br>「感冒とインフルエンザ」         | 8:30-10:30<br>オーストラリアの薬局紹介                 |
| 10:15-10:45 休憩  | 10:15-10:45 休憩                                  |  | 10:15-10:45 休憩  | 10:30-15:00<br>Activity<br>薬局見学            |
| 10:45-12:45<br>English<br>「初回交流・自己紹介」<br>「ブリスベンで行くべき場所」 | 10:45-12:45<br>English<br>「オーストラリアの動物」          |  | 10:45-12:45<br>English<br>「薬局見学の事前学習」                     |  |
| 12:45-13:30 昼食  | 12:45-13:30 昼食                                  |  | 12:45-13:30 昼食  |  |
| 13:30-16:30<br>Activity<br>市街散策                         | 13:30-16:30<br>Activity<br>ローンバインでコアラとのふれあい     |  |   |  |
| 8/19(月)   | 8/20(火)   | 8/21(水)  | 8/22(木)   | 8/23(金)                                    |
| 9:00-16:30<br>Activity<br>ノース・ストラドブロック島<br>観光           | 8:15-10:15<br>English<br>ワークショップ②<br>「痛みと倦怠感」   | 8:15-10:15<br>English<br>ワークショップ③<br>「処方箋をよむ」        | 8:15-10:15<br>English<br>ワークショップ⑤<br>「添付文書をよむ」            | 8:15-10:15<br>English<br>「ホストファミリーへの感謝と別れ」 |
|   | 10:15-10:45 休憩                                  | 10:15-10:45 休憩                                       | 10:15-10:45 休憩  | 10:15-10:45 休憩                             |
|   | 10:45-12:45<br>English<br>「PA病院見学の事前学習」         | 10:45-12:45<br>English<br>ワークショップ④<br>「PA病院訪問の事前学習」  | 10:45-12:45<br>English<br>ワークショップ⑥<br>「薬剤データシートを読解と適切な助言」 | 10:45-11:30<br>終了式                         |
|   |   | 12:45-14:00 昼食                                       | 12:45-14:00 昼食  | 12:00-13:30<br>送別会                         |
|   |   | 14:30-16:30<br>activity<br>プリンセス・アレクサンドラ<br>(PA)病院見学 |   |  |

識を学ぶようにプログラムが組まれていた。授業スタイルは座学だけではなく、ワークショップ形式も織り交ぜ、英語でコミュニケーションを取りながら学習した。段階的に進められるため、学生は抵抗感なく英語と専門知識の習得が出来た。また ICTE の教員は留学生専門で、英語を母国語としない学生への対応が非常に上手いことも特徴の一つである。

Activity では 5 日目に薬局の見学、8 日目にはプリンセス・アレクサンドラ (PA) 病院の見学を行い、学生はオーストラリアの薬剤師の仕事や日本との違いを実際に体験することが出来た。また、オーストラリアの文化や自然に触れる時間として、ブリスベンの市街散策、ローンパイン (動物園) 見学、ノース・ストラドブローク島の自然体験が設けられていた。8 月は EKKA と呼ばれるクイーンズランド州の農業収穫祭が 10 日間開催されている。EKKA 開催中の水曜日 (2019 年度は 8 月 14 日) は祝日となり、大学は休講であった。この日は本学の学生全員で EKKA に参加し、オーストラリアの文化に触れる一日を過ごした。

週末はそれぞれ自由行動した。ホストファミリーと共に近郊の観光地へ出かける学生もいれば、ホストファミリーとホームパーティを行う学生もいた。オーストラリアの文化や自然に触れ、英語を堪能する時間となった。

帰国後にはレポートを提出し、次年度の参加希望者に向けた報告会を 12 月に開催し、研修の様子やオーストラリアでの生活や体験談などをプレゼンテーションした。

#### (アンケートの実施)

帰国後の報告会において、参加者に対して英語力の自己評価とオーストラリア生活を通しての感想や改善点について 16 項目について、表 2 (次ページ) のアンケートを実施した。回答は任意とした。

### 3. 結果のまとめ

参加学生 32 名中 20 名がアンケートに回答し、回収率は 62.5% であった。本報告ではアンケート項目のうちオーストラリアの文化と生活に関係する内容を中心に報告する。

#### ・衣服について

日本の平均降水量は約 1700mm であり、オーストラリアの年間の降水量は約 450mm と日本に比べ約 1/4 である<sup>1)</sup>。そのため、水の使用に対する感覚は日本人とオーストラリア人では全く異なり、日常生活に大きな影響を与えている。本研修に関係する内容としては、日々の洗濯、シャワーが顕著であった。

「3a. 着替えは何日分持っていましたか？」

|    |         |          |
|----|---------|----------|
| 男性 | アウターウェア | 平均 2.0 枚 |
|    | インナーウェア | 平均 4.8 枚 |
| 女性 | アウターウェア | 平均 2.6 枚 |

表2. 学生アンケートの詳細

|     |  |                          |
|-----|--|--------------------------|
| 1.  | 男性ですか、女性ですか？                             | _____                    |
| 2.  | 自分の語学研修前の英語の実力に点数をつけるとどのくらいどのくらいだと思いますか？ |                          |
|     |  | Reading _____ /10        |
|     |  | Writing _____ /10        |
|     |  | Listening _____ /10      |
|     |  | Speaking _____ /10       |
| 3.  | a 着替えは何日分持っていきましたか？                      | アウター _____<br>インナー _____ |
|     | b 何日分持っていけばよかったともいますか？                   | アウター _____<br>インナー _____ |
|     | c 洗濯は何日おきにできましたか？                        | _____                    |
|     | d 寝間着は持っていきましたか？                         | _____                    |
| 4.  | a 現金はいくら持っていきましたか？                       | オーストラリアドル _____          |
|     | b 現金はいくらくらい持っていくべきですか？                   | オーストラリアドル _____          |
| 5.  | 交通費はいくら使いましたか？                           | _____                    |
| 6.  | 大学で一番良かったのは何の時間ですか？                      | _____                    |
| 7.  | 大学で一番悪かったのは何の時間ですか？                      | _____                    |
| 8.  | 2週間で一番良かったのは何の時間ですか？                     | _____                    |
| 9.  | 2週間で一番悪かったのは何の時間ですか？                     | _____                    |
| 10. | 英語で会話した1日の時間はどのくらいですか？                   |                          |
|     |  | 大学 _____ 分               |
|     |  | 外出先 _____ 分              |
|     |  | ホームステイ先 _____ 分          |
| 11. | 語学研修を終えて英語の実力は何点になったと思いますか？              |                          |
|     |  | Reading _____ /10        |
|     |  | Writing _____ /10        |
|     |  | Listening _____ /10      |
|     |  | Speaking _____ /10       |
| 12. | 持って行ったほうが良いものは？（自由記述） 例：ドライヤー            |                          |
| 13. | 日本へのお土産のおすすめは？購入場所は？（自由記述）               |                          |
| 14. | ホームステイ先でのトラブルや困ったことなど、またその解決法（自由記述）      |                          |
| 15. | ホームステイ先に持って行ったお土産と反応（自由記述）               |                          |
| 16. | 後輩へのアドバイス、語学研修の感想、改善してほしいこと（自由記述）        |                          |

インナーウェア 平均5.0枚

「3b. 着替えは何日分持っていけばよかったともいますか？」

男性 アウターウェア 平均2.0枚

インナーウェア 平均4.0枚

女性 アウターウェア 平均2.8枚

インナーウェア 平均5.9枚

「3c. 洗濯は何日おきにできましたか？」

平均4.1回（1回／1日～1回／1週間）

内訳を確認すると、洗濯が1回／1日であった学生は持参すべきインナーウェア数は少なくて良いと回答し、洗濯回数が1回／1週間であった学生はインナーウェア数を増やすべきと回答しており、平均すると持参インナーウェア数と持参すべきインナーウェア数に差がない結果であった。一方で、アウターウェアは洗濯回数に影響されず、3枚持っていけば十分であることがうかがえた。持参すべきウェア数はホームステイ先の家族環境に大きく依存するため、事前のメール連絡で洗濯回数は聞いておくべきと考えられた。

#### ・現金について

最近日本もキャッシュレスが進んでいるが、オーストラリアではさらにキャッシュレスが進んでおり、日常生活で現金を使用することはまれである。キャッシュレスは防犯上も有用であるため、参加学生にはクレジットカードを必ず携帯するように指導している。しかしながら、交通カード（GOカード）へのチャージやクレジットカードのトラブルをはじめ現金が必要な場合もあるため、ある程度の現金の携帯は必須である。

「4a. 現金はいくら持っていきましたか？」

平均190ドル（最小50ドル～最大400ドル）

「4b. 現金はいくらくらい持っていくべきですか？」

平均176ドル（最小20ドル～最大400ドル）

「5. 交通費はいくら使いましたか？」

平均101ドル（最小55ドル～最大150ドル）

多くの生徒は200ドル程度の現金が必要と考えていたが、ホームステイ先によっては交通費がほとんどかからない場合があり、そのような生徒が交通費としての現金が少なくて良いと判断したため、4aに比べ4bでは平均値が下がったと考えられた。多くの学生は週末に近隣都市のゴールドコーストに出かけたため、その交通費も含まれている。しかしながら、ホームステイ先によっては1週間あたり50ドルもの交通費がかかると考えられた。

#### ・大学で過ごした時間について

平日は基本的に授業開始は8時15分であった。遠方にホームステイした学生は早朝からの

通学が大変だったと聞いた。霧の発生によりフェリー通学の学生が遅刻したり、交通カードを紛失して遅刻するトラブルがあったが、引率教員への電話連絡がスムーズだったこともあり、大きなトラブルにはならなかった。授業終了後は、各自のホストファミリーと約束した時間に間に合うように帰宅した。研修の後半は生活に慣れたためか、放課後にショッピングや観光を行う学生も見受けられた。基本的に平日の大部分を大学で過ごしている。そこで、大学で過ごした時間に関する意識も調査した。

「6. 大学で一番良かったのは何の時間ですか？」

アクティビティ 10人 (ストラトブローク島3名を含む)

授業 9人 (医療会話 4名を含む)

「7. 大学で一番悪かったのは何の時間ですか？」

昼休憩 3人 (理由; 短い)

授業 1人

海外が初めてだという学生が多かったので、オーストラリアの文化などに触れることができるアクティビティが良かったと答える学生は、想定されたように多かった(図1)。しかしながら、ほぼ同数の学生が座学の授業と答えていた。授業の様子を見学すると、初日は緊張のためか英語を話すことの難しさからか、口数は少なかった。しかしながら英語を母国語としない学生への英語授業を専門とする教師陣による授業は面白く、2、3日目には学生たちは活発に英語で話すようになっていた。



図1. ストラトブローク島

・研修を通して

薬学海外研修は大学での講義とアクティビティとホームステイから構成されている。両内容を通して学生はどのような点が良かったのかをアンケートした。

「8. 2週間で、一番よかったのは何の時間ですか？」

ホームステイ 6名

EKKA (クイーンズランド州農業祭) 6名

週末 5名

病院見学 3名

「9. 2週間で、一番悪かったのは何の時間ですか？」

なし 8名

通学時間 2名

ストラトブローク島 2名

英語漬けの環境となるホームステイが、クイーンズランド州農業祭のEKKAと並んで最もよかったと答えた学生が多かった。日本で生活をしていると、日常的に英語を話すことはまれであり、参加学生のほとんどが英語を使用して生活したことはない。そのため、ホームステイは学生にとって大きなストレスであったと考えられたが、いったん英語でコミュニケーションができるようになると、英語での意思疎通を楽しんだと思われた。また、ホストファミリーは留学生の受け入れ経験が豊富な人が多く、その対応も良かったと聞いた。病院見学と記述した学生が3名いたことから、本研修の薬学的な価値の高さもうかがえた(図2)。悪かった点は自由記述にもかかわらず、8名の学生がわざわざ「なし」とするほど、満足度が高かったと思われた。ホームステイ先からの通学時間が片道90分の学生もいたため、通学に苦勞した学生もいた。

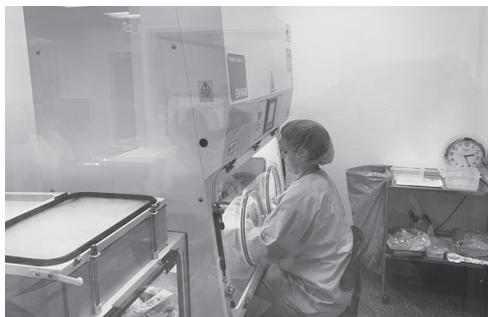


図2. PA病院見学

#### ・研修期間中の英会話時間

学生の平日のスケジュールは8時15分授業開始、12時45分昼食、13時30分授業開始、16時30分授業終了、帰宅である。およそ7時間程度を大学で過ごし、残りをホームステイ先、もしくは外出先で過ごす。就実薬学雑誌にて「オーストラリア薬学海外研修(2019)の成果報告」として英語能力の主観的評価について報告している。わずか2週間の研修ではあるが、学生たちは英語能力の向上を実感している。その理由の1つに英語に触れる時間の長さが考えられたため、アンケートを行った。

「10. 英語で会話した1日の時間はどれくらいですか？」(図4)

|         |      |
|---------|------|
| 大学      | 136分 |
| 外出先     | 43分  |
| ホームステイ先 | 106分 |

大学の講義では、初回到授業中の英語以外の使用禁止を課している。教員が英語で質問することも多く、最初は戸惑ってはいるものの、学生たちは英語で答えていた(図3)。さらに、グループディスカッションなど英語を話す時間もたくさん設けられていた。それと同程度の時間、ホームステイ先で英語での会話が行われていた。事前に教員からホストファミリーとのコミュニケーションをしっかりと行うようとの指導を受けており、学生がそのア



図3. 授業風景

リとのコミュニケーションをしっかりと行うようとの指導を受けており、学生がそのア

ドバイスをしっかりと実践した結果が表れている。ホストファミリーとのコミュニケーションをしっかりと取ることで英会話スキルが上がったとの回答もあり、ホームステイが英語能力の向上に大きく寄与していることがわかった。

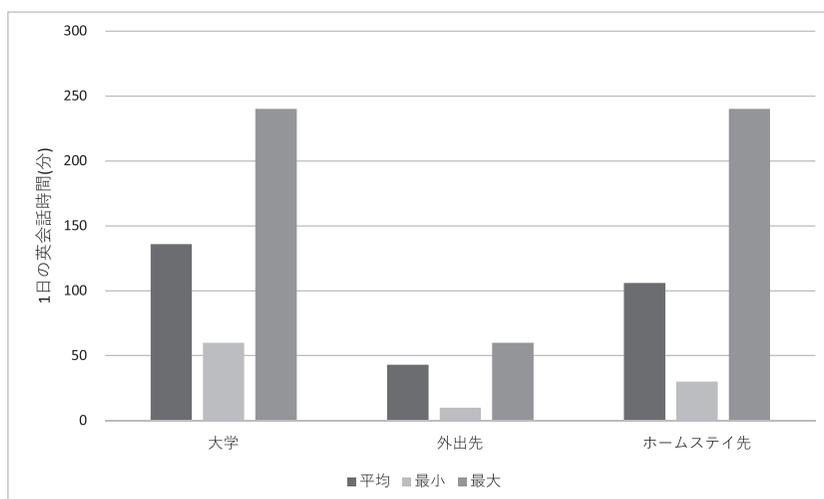


図 4. 1 日の英会話時間

#### ・研修にもっていくと役立つもの

日本とオーストラリアでは、生活様式、文化などすべてが異なる。その違いを体験することも研修の目的に含まれている。しかしながら、快適な留学生活を行うためには日本から持参したほうが良いものもある。

「12. 持って行ったほうが良いものは？」

防寒具、ドライヤー、サングラス、スリッパ、帽子、ビニール袋、日焼け止め、保湿剤、予備バッテリー

多くの学生が持って行った方が良いものとして記述した物品を示した。日本との気候の違いに起因する日焼け対策グッズが多く挙げられた。また、調べもの、地図など様々な場面で活躍し、一日中使用するスマートフォン用、Wifi ルーター用の予備バッテリーは便利さからも、安全性からも重要である。また、飛行機の移動が長いことから、機内で快適に過ごすためのグッズを述べた学生もいた。

#### ・ホームステイ先、日本へのお土産

学生は毎日、ホームステイ先に帰宅し、長い時間を過ごす。そこで、ホームステイ先ファミリーと仲良くなるために、お土産を持参する。学生たちの仲良くなるための工夫などが見られる内容であり、お土産のアイデアを考えることから、オーストラリアとの異文化交流は始まる。

「15. ホームステイ先に持って行ったお土産と反応」

カントリーマーム、フリクションボールペン、折紙、ポストカード、団扇、コアラのマーチ

カントリーマームが人気であったが、これは2017年度の研修旅行の帰朝報告会で学生が推薦したためと考えられた。その他には日本特有の折紙、団扇などが挙げられた。また、ホームステイ先は留学生を何度も受け入れている家庭が多いため、食べれるお菓子を選択する学生も多かった。このアンケート項目への記述は多岐にわたっており、学生達の工夫が垣間見られた。

「13. 日本へのお土産のおすすめは？購入場所は？」

T2紅茶、ティムタム、はちみつ、T2コップ、PAWPAW クリーム

購入場所：インドロピリーのモール、薬局、ブリスベン市街地（図5）、ゴールドコースト、空港

オーストラリアの紅茶であるT2が人気であった。また、クイーンズランド州では養蜂が盛んなため、はちみつの種類が多く、価格も安かった。いずれも、オーストラリア産の有名な品がお土産に選ばれていた。



図5. ブリスベン市街地

・ホームステイ先でのトラブル

ホームステイ先は留学生の受け入れになれる家庭が多い。しかしながら、日本人の何気ない行動がオーストラリアでは非常識なこともある。そこで、引率教員の対応は必要ないレベルのホームステイ先で起こったトラブル及び解決法についてアンケートを行った。

「14. ホームステイ先でのトラブルや困ったことなど、またその解決法」

- 英語のなまりが強く聞き取りにくい → 何度も聞き返す、質問はその場でする
- 洗濯のタイミングが合わない → 着替えを多めに持っていく
- 食事の量が多い → 胃薬などを持参する
- 室内も土足での生活となるためスリッパは必需品である
- シャワーの時間は3分と決められており苦勞した → 日本でしっかり練習する
- バスの時間などが不親切である → スマートフォンで調べれる環境を準備する

ホームステイということもあり、様々なトラブルが発生していた。しかしながら、その多くは事前準備やコミュニケーションをしっかりとることで解決できる、未然に防げる内容が多くあった。オーストラリアでは水は貴重であるので、シャワー時間については特に女子学生が苦勞しており、ホストファミリーから厳しい注意を受けた学生もいた。このような事例を集めていくことで、薬学海外研修はよりスムーズに行えると思われた。

・学生視点からのコメント

最後に学生の視点から、薬学海外研修をどのように感じたか、次年度以降に研修を受ける学生へ伝えたいことをアンケートした。

「16. 後輩へのアドバイス、語学研修の感想、改善してほしいこと」

- 英語漬けの日々は大変だったが、とても良い経験になる。
- チャレンジ精神、楽しむ精神が大切。
- ファミリーとしっかり話すと英語力が上がる。
- 積極的な授業への参加が英語力向上に大切。
- 病院見学にもっと時間を割いてほしい。
- 寒さ対策をしっかりする。
- 教員のサポートで助かった。

多くの意見の中から代表的な意見を載せた。英語や医療系に関する授業・アクティビティへの関心の高さがうかがえ、本研修の目的である薬学・英語について大いに学ぶことができたと思われた。さらには、海外でホームステイという日本では経験できなかったことを通して、人間的にも成長したと感じた。

また、改善点としては以下が述べられた。

- 通学が遠いと苦勞する。
- 昼休憩が短い。

これらについては、現在、改善案は出ていない。しかしながら、薬学海外研修の充実のためにもアンケートを続けるべきであると考えている。

この研修プログラムは英会話能力や海外の医療や薬学について学ぶことはもちろんであるが、オーストラリアの文化に触れることも大きな目的の一つであった。今回のアンケートでは学生がオーストラリアの生活を肌で感じたことがわかる結果であった。

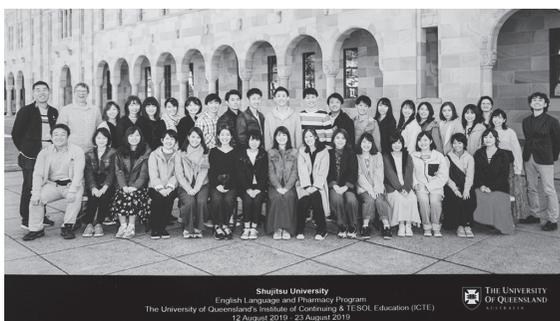


図6. クイーンズランド大学にて

本年度は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、やむなく中止となった。感染症が早期に収束し、安全にこの研修を実施できる環境となることを願いながら、次回に向けて多くの学生にとって実りある研修となるように準備を進めていきたい。

#### 4. 謝辞

アンケートに協力いただいた学生の皆様に感謝いたします。本研修の成功にご尽力いただ

いた国際交流センターの皆様、教職員の皆様に御礼申し上げます。

## 5. 参考文献

- 1) 国土交通省 [https://www.mlit.go.jp/river/pamphlet\\_jirei/bousai/saigai/kiroku/suigai/img/g3-2.gif](https://www.mlit.go.jp/river/pamphlet_jirei/bousai/saigai/kiroku/suigai/img/g3-2.gif)